

2019年度 独創的研究助成費 実績報告書

2020年3月31日

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	佐藤美恵
研究課題	Audience Response System (クリッカー) を用いた双方向型授業が看護学生の学習に及ぼす影響					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	佐藤美恵	看護学科・准教授	基礎看護学	総括・データ収集・分析	
	分担者	高林範子 名越恵美 犬飼智子	看護学科・助教 看護学科・准教授 看護学科・助教	基礎看護学 成人看護学 成人看護学	データ収集・分析 データ収集・分析 データ収集・分析	
研究実績の概要	<p>【目的】 Audience Response System (クリッカー) を用いた双方向型授業に対する1年生の評価と3年生の評価を比較し、クリッカーの効果的な使用について検討する。</p> <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象：対象はA大学看護学科の1年生42名、3年生42名の計84名である。 授業の概要：クリッカーは、1年生の1クォーター開講の1科目、1年生の2クォーター開講の1科目、3年生の1~2クォーター開講の1科目で使用している。これらの科目はいずれも必修科目である。講義時に、看護師国家試験で過去に出題された問題の中から、その時限の学習内容と関連する問題を提示しクリッカーを用いて回答してもらう。学生の回答状況に応じて、解説や補足説明を行っている。 調査方法：データは、自記式質問紙調査により収集した。調査は、両学年ともに、2クォーターの講義の最終回終了時に実施した。 調査項目：調査項目は、「今日の授業に積極的に参加した」、「今日の授業に満足した」など授業への参加意識や満足度を尋ねる5項目および「クリッカーは授業に有用である」、「クリッカーを使用した授業を継続して受りたい」などクリッカー使用に関する15項目の計20項目とした。各項目について「5=そう思う」から「1=そう思わない」の5段階で回答を求めた。 分析方法：5段階の回答の数値をその項目の値とし、値が大きいほど「そう思う」と回答した者が多いことを示すよう意味づけた。1年生と3年生の平均値を Mann-Whitney U Test を用いて比較した。有意水準は5%とした。 					

※ 次ページに続く

研究実績
の概要

【倫理的配慮】本研究は、通常の授業で用いているクリッカーに関して、学生に質問紙調査を行ったものである。調査への協力は自由意思によるものであり、協力の有無は該当科目の成績に影響しないことを、文書および口頭で説明した。データは統計的に処理するため個人のプライバシーは守られること、結果は学会などで公表することも説明した。本研究は、岡山県立大学倫理委員会の承認を得て実施した（番号 19-09）。

【結果】回収数は 84 部（回収率 100%）であった。調査項目のうち、学年間で平均値に有意差が認められたものについて以下に示す。3 年生より 1 年生の平均値が有意に高かった項目は、「授業への出席意欲が高まる」（1 年生：4.4、3 年生：3.5）、「楽しい」（1 年生：4.7、3 年生：4.2）、「気分転換になる」（1 年生：4.9、3 年生：4.5）の 3 項目であった。逆に、1 年生より 3 年生の平均値が有意に高かった項目は、「今日の授業に積極的に参加した」（1 年生：4.4、3 年生：4.7）、「今日の授業を理解できた」（1 年生：4.2、3 年生：4.7）、「講義中にクリッカーを操作することは面倒である」（1 年生：1.3、3 年生：1.8）、「授業内容の理解に役立つ」（1 年生：4.4、3 年生：4.8）の 4 項目であった。

【考察】クリッカーは、看護の初学者である 1 年生では情緒面への刺激になっており、各論実習が開始される 3 年生では学習への意識付けになっていると考えられ、両学年ともに学習を促進させるツールになっていると言える。学年の特徴を考慮してクリッカーを使用することが、より効果的な使用につながり、授業の質向上に貢献できると考える。